

災害に関する基礎講座③

「1時間に50ミリ」ってどんな雨？

局地的大雨が相次ぎ、天気予報などで「1時間に50ミリの非常に激しい雨が降る」など、雨量に関する言葉を耳にする機会が多くなりました。1時間に50ミリの雨とは、実際にどのくらいの雨の量で、どのくらいの強さなのでしょう？



💡 解説

「1時間で50ミリの雨」は、予報用語では「非常に激しい雨」に分類されます。降った雨がそのまま溜まった場合に、「1時間で雨水が50ミリメートル（5センチ）の高さまでたまる」ということです。

雨が滝のように降り、傘は全く役に立たなくなります。屋外に出ても水しぶきの影響で視界が悪くなるため、自動車の運転は危険です。土砂災害が発生する可能性が高くなり、避難するときにも十分な注意が必要です。

予報用語	1時間雨量	雨の降り方とその様子
やや強い雨	10~20mm	<ul style="list-style-type: none"> ・ザーザーと降る ・地面からの跳ね返りで足元がぬれる ・地面一面に水たまりができる
強い雨	20~30mm	<ul style="list-style-type: none"> ・どしゃ降り ・傘をさしてもぬれる ・ワイパーを速くしても見づらい
激しい雨	30~50mm	<ul style="list-style-type: none"> ・バケツをひっくり返したように降る ・道路が川ようになる ・高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる
非常に激しい雨	50~80mm	<ul style="list-style-type: none"> ・滝のように降る（ゴーゴーと降り続く） ・傘は全く役に立たなくなる ・水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる ・車の運転は危険
猛烈な雨	80mm以上	<ul style="list-style-type: none"> ・息苦しくなるような圧迫感がある ・恐怖を感じる

※気象庁資料より抜粋